



青葉の詩

あおほのうた
第17号

菊陽町立菊陽南小学校
校長 渡邊浩文

学習発表会・学級懇談！

たくさんさんの参加、感謝します

いよいよ今年も押し詰まってきました！

子どもたちがでしかたか？
もう一週間前になってしまいま

した。今年の学習発表会、寒い中、たくさんさんの参加ありがとうございました。子どもたちも、積み上げてきた学びと練習した成果をしっかりと発揮してくれました。

また、ひとつひとつのプログラ

ムに対して、インタビュアー(?)が差し出したマイクに、快く感想を発表していただいた皆様、本当にありがとうございました。

プログラム最後の全員合唱で、全校生徒が一生懸命歌っている姿を見ながら、改めてこの学校のよさを感じました。何がいいのか、それは子ども一人一

校長ナベちゃんのみちのくひとり旅日記 その8

ここでシカできない体験をすることになる・・・

山の中、田んぼの中を走ってきた釜石線。北上山地をやっと抜け出て、市街地が見えてきた。国道が線路と並進し、自動車の往来も多くなる。ここが日本の鉄鋼業を支えてきた釜石か…などと考えると、ディーゼル車の警笛が鳴り響いた。そして、急ブレーキ！16時38分。予定ではあと3分で釜石駅着、もうすぐそこなのに。

列車の一番後ろの窓から、走ってきた線路を眺めていた私には、前方で何が起きたのか分かるすべはなかった。何かに衝突したのだろうか。しかし、一番後ろにいたからこそ、どの乗客よりも早く、事態が飲み込めた。急には止まらない列車が通り過ぎた線路に、横たわっていたもの。それは大きなシカであった。直後に車内放送「ただいまシカと衝突しました。安全確認のため、しばらく停車します。」

それを聞いた多くの乗客が、私がいた列車の最後尾にやって来た。そして、シカが横たわっている様子をシカと見届け、これでは列車が遅れるのもシカたないと、納得するシカなかったのである。(^_ ^)

ちょっとした騒ぎが収まり、最後まで残ったのは男の子とその父親、そして私。父親が子どもに「シカは線路を舐めに来ていたんだ」と説明していた。鉄分補給か、なるほどと思いつつ、しかし線路を舐めるぐらいで摂れるのか、シカの舌ってどうなっているんだ、と疑問もわいた。後日調べると、レールと車輪の摩擦で鉄が削れる、しかも、カーブなら削れ方が大きいとあった。見通しの悪いカーブで削れた鉄を舐めに来ているシカ。発見が遅れ、衝突に至る可能性が高いのだ。

父親の方は座席に戻り、残ったのは男の子と私だけになった。「君どっから来たの？」と尋ねると「むつつ」…えっ六つ、六歳って年齢を聞いたんじゃないけどな、1年生にしては大きいしなあ…東北弁と熊本弁では通じないのかと…などと考えながらも一度ゆっくりはっきりした言葉で聞いてみた。「むつ、青森県のむつ市。3年生です。」合点がいった。

私の手帳を興味深そうにのぞき込んできたり、シカはどうなるんだろうと話したり、列車が動き出すまでの時間が過ぎる。こんな時のためにと、熊本空港で買った「くまモンのぷっちょ」をあげた。驚きながらも、笑顔でお礼が返ってきた。

倒れたシカを残して、やがて列車は動き出した。あっという間に鉄の町釜石に着いた。降り際に母親からもお礼を言われた。親子3人の家族旅行らしく、楽しそうに笑顔で歩いて行った。

8月末に気になるニュースがあった。北朝鮮のミサイル発射。北海道や青森県に緊張が走る。休校や始業を遅らせるところも。むつ市も近い。あの子は元気で笑顔でいるのだろうか。(続く…)

人の『顔』がはっきり見えることです。

全員合唱ではステージにきれいに並んでしまうので、誰がどこにいるのかすぐわかります。その意味でも、一人一人の顔がハッキリと判別できます。我が子がどこにいるのか、どんな表情をしているのか、すぐ分かるのです。

先生方にとっても同じことが言えますし、大きな意味があります。

どの子もすぐに見つけることができ、しっかりと見つめることができます。一人一人を深く理解することが出来るのです。

本校は少人数の学校ですが、そ

のよさを最大限いかしていく。全員合唱をする姿を見ながら、考えたことでした。

合唱の話題をもう一つ。子どもたちが歌った歌は「世界中のこどもたちが」です。十二月の歌として、毎朝各クラスで歌っています。校内放送が流れ始めると、みんな立って手話をしながら、大きな声で歌うのです。

この歌を聞きながら、歌詞をじみじみと眺めてみました。

世界中のこどもたちが

いちごに 笑ったら

空も 笑ったろう

ううう 海も 笑ったろう

世界中のこどもたちが

いちごに 泣いたら

空も 泣いたろう

ううう 海も泣いたろう

世界中のこどもたちが

いちごに 歌ったら

空も 歌ったろう

ううう 海も 歌ったろう

世界中のこどもたちが

いちごに 歌ったら

空も 歌ったろう

ううう 海も 歌ったろう

世界中のこどもたちが一度に笑うなど、物理的にあり得ない。そんな無粋なことを言う人はいないでしょうが、初めて歌を聞き、歌詞を見たときには、ちょっと感動したものです。

小学校に勤務することが長い間なかったし、自分の子どもが小学生の頃どんな歌を歌っているのか、あまり気にすることもありませんでした。でも、この学校に赴任して、子どもたちが歌う歌をじっくりとかみしめることができるようになりました。

学習発表会、私にもいろんなことを教えてくれました。